広がる技術

ソバ「春のいぶき」を栽培する豊後高田そば生産組合が「九州農政局長賞」

【はじめに】

大分県豊後高田市の「豊後高田そば生産組合」が、地域の立地条件を活かした創意工夫のある優良な地産地消等の取組・活動の実施により、2017年度地産地消等表彰事業における九州農政局長賞を受賞されました。豊後高田そば生産組合は、農研機構九州沖縄農業研究センターが春まき向きに育成した穂発芽しにくいソバ品種「春のいぶき」を、2008年の育成と同時に導入して下さった産地の一つです。穂発芽とは、春まき栽培で生じやすい、成熟した子実が梅雨等の雨で濡れると発芽しソバ粉品質が劣化する問題です。

【豊後高田そば生産組合の取り組み】

豊後高田市は2003年にソバ栽培を始めた新興産地ですが、「常に進化する産地」を目指した取り組みで、国内の春まきソバの最大産地となっております(2016年：春まき84ha・秋まき57ha)。ソバ栽培は耕作放棄地の活用策にもなっています。

豊後高田そば生産組合は、ソバ栽培技術を指導し、栽培管理・収穫作業を実施しています。また、収穫物を集荷、出荷し、組合の構成員が組織する豊後高田そば株式会社と一体となり、乾麺・生麺・手打ち麺・ソバ茶・ソバパスタ等を市内の直売所や県内外の百貨店で販売し、「仏の里」や「昭和の町」等の観光資源とも連携し、６次産業化を進めています。豊後高田市内には2003年以前はソバ店がありませんでしたが、地元産のソバ粉を使った手打ちそば認定店が12店舗にも増加しています。春まき栽培の特徴を活かし、春まきソバの花が咲き始める５月に「豊後高田そば祭」が開催され、観光客で賑わいます。ソバ打ち体験やソバ打ち指導が行われる豊後高田そば道場には、2016年には1500人の来場がありました。そば道場で講習を受けた高校生が2017年に全国高校生そば打ち選手権に初出場し、次の世代が育成されています。

豊後高田そば道場

【おわりに】

このような６次産業化の維持・発展のためには、安定生産が前提となります。豊後高田市役所は農業ブランド推進課が中心となり、栽培技術の普及に取り組んでおり、ソバ連作障害予防のためにハトムギ品種「あきしずく」を輪作に取り入れる等、農研機構の研究成果の社会実装にご協力頂いています。活動は豊後高田市内にとどまらず、昨年の熊本地震で被害を受けた大分県九重町のソバ産地形成も支援されています。

【作物開発利用研究領域　原　貴洋】

豊後高田市の生産者の圃場

コラム

ソバ新品種「NARO-FE-1」(2017年９月出願公表)は、「春のいぶき」よりさらに穂発芽しにくく、容積重が重い等の特徴があるため、春まき栽培での活用が期待されます。